

20S

使いやすいジョグダイヤルはそのままに格段と進化した

次世代のセナ・インターラームの第1弾ともいいうべきモデルが「20S」。従来の「SMH」シリーズとは違うモデルナンバーカーから、セナのインターラームが次のステージに進んだことを象徴するニューモデルであり、その数字のとおり「SMH 10」の上に位置する、名実ともにセナ・インターラームのフラッグシップとなっている。

業界で初めてブルートゥースモジュールを2つ搭載し、最新のブルートゥース4・0に対応したことで処理能力が大幅にアップ。いわば賢い頭脳が2つあるようなので、従来のものよりスペックが高く、より多機能で信頼性も向上している。

している。

その象徴のひとつが「オーディオマルチタスク」機能。音楽、ナビの案内といった音声や、本体内のFMラジオの音声をインターラーム通話に重ねて流すことが可能になった。また、いわゆるグループ通話の最大人数が8人に、同時に最大通信距離が約2・0kmとなるなど、基本性能もしっかりと底上げされている。

また、20Sには今までにならない発想の機能が数多く搭載されている。そのひとつが「アンビエントモード」だ。これは、ボタン一押しでヘルメットの外の音がスピーカーから流れ、料金所などでヘルメットを脱がずに状況が把握できるもの。このほか、音声認識による操作やモーションセンサーとNFCを使ったクイックペアリングなど、新しい技術を使った機能を満載。さらに、スマートに入れた専用アプリを使って本体の各種設定ができる機能も加わった。これまで音声ガイダンスを使っていた設定が、画面を見ながらタッチ操作ができるという画期的なものだ。もちろん、セナのアイコンともいえるジョグダイヤルは健在。この定評のある使いやすさに数々の新機能が加わった20Sは、さらにまた一步先を行くインターラームだ。といつても過言ではない。

2つの頭脳を持った



大きくなったジョグダイヤル

セナ・インターラームの特徴のひとつであるジョグダイヤルは、さらに大きくなり、操作しやすくなっている



クイックリリースボタンの付いた「ユニバーサルクランプユニット」。マイク、スピーカーケーブルが着脱式で、外部入力、イヤホン端子も装備

マイクはクランプユニットに付いたブームマイクのほか、ケーブルマイクに加えて外付けブームマイクも同梱。ヘルメットに最適なものが選べる



SMH10のものとほぼ同じ径、厚みながら、側面に9ヵ所の穴を持ち、豊かな低音を奏でる新型スピーカー。前面にはシルバーのリングを装備する



エッジの効いたフォルムに黒とシルバーの2色があしらわれたデザインが新鮮な20Sの本体。ジョグダイヤルとフォンボタンというレイアウトは変わらず、SMHシリーズよりも薄くフラットにまとめられている。通信距離を伸ばすための格納式アンテナを備えている

新世代のインターラーム



価格:3万6072円(ソロ)、6万9984円(ペア)
サイズ:横94.7×縦48.3×奥行き25.5mm
本体重量:60g
最長通話時間:12時間
最长待受時間:240時間
最大通信距離:最長2.0km(見通しの良いところ)
ブルートゥースプロファイル:HSP、HFP、A2DP、AVRCP、PBAP

従来のSMHシリーズの上位に位置するモデルとして登場した20S。業界初のデュアルモジュールブルートゥースシステムを搭載し、オーディオマルチタスク機能が使えるほか、あらゆる面で従来機種より進化している

